

霜対策と越冬対策を行う時期	
2004年11月	霜対策と越冬対策を行う時期
朝夕は肌寒いけれど、日中はおだやかな晴天が続きます。さまざまな木々の効用が目を見せつけてくれます。冬に向けて防寒対策をしっかりと行い、植物の保護を忘れずに!	
庭木の作業	落葉樹の植えかえが下旬から可能になる。
草花の作業	秋まきした苗や、植えかえたばかりのものはビニールなどで覆い、風や霜を防ぐ。

冬越しと防寒対策

秋に葉が色づく頃、冬に備えて、早めに防寒対策を行いましょ。秋まきした苗や植えかえたばかりのものは、ビニールなどを苗の上に設置して風や霜を防ぎましょ。マルチングは土の乾燥を防ぐ効果もあります。春咲き球根植物の場合も、霜が降りる前に、ほどよく寒さにあて、マルチングすること。

※マルチング・・・植物の株元の地表面を覆うこと。土の乾燥や温度変化を緩和したり、土中に生存するえき病などの病原菌が降雨時のはね上がりによって茎葉に付着し感染することを予防したり、土の舞い上がりを防止したり、雑草の発生を抑制する効果もあります。

そのほかに ササの小枝を苗の上に置いたり、ビニールトンネルなどを使用してもOK。宿根草は枯れた茎を切り取り、刈り芝や落ち葉、堆肥を敷き込んで保護します。



穴あきビニールをかけて土でおさえる



穴あきビニールをかけて土でおさえる

極端に寒さに弱いものは、室内で冬越しさせますが、早く入れすぎると、抵抗力がなくなるので注意。種類にあった日照が得られる場所に置き、室温の調節も忘れてはいけません。寒さに対する抵抗力をつけるためには過リン酸石灰や草木灰などを秋のうちに施肥しておく効果的です。また寒い時期でも、多少水分は必要です。水やりは必ず行いますが、量は少なめに。

鉢物を室内に入れる・冬囲い

寒さに弱い鉢物は室内で管理ましょ。なるべく低温に保ち、あたためすぎないようにして、高温と低温の差を少なくましょ。あたたかい部屋は、空気が乾燥するので注意ましょ。風の吹きあたる戸外で冬越しする場合、乾燥して根が乾いたり、寒さで枯れたりしないように、地面にぎっしりと鉢を並べ、まわりに土を寄せて、鉢が割れるのを防止し、寒さから守ります。鉢の上にワラや落ち葉をかけると、効果大。

●鉢物も冬囲い



周りに土を寄せて寒さから守る

ハボタンの植えつけ

冬の庭は、花数も少なく寂しい印象を与がちです。常緑のアイビーのほか、彩りを添える代表的な草花にハボタンがあります。

吹きさらしで北風の当たる場所を避け、日当たりのよい場所を選んで植えつけましょう。販売時は、根に土をあまりつけていないため、遅い植えつけや乾燥で根つきが悪くなる場合があるので注意しましょう。

また、生育中も強い寒さと乾燥に、十分注意しましょう。

大株のものは 成長して茎が長く伸びるので、植えつけ時は深植えに。

鉢植えには 大鉢に2~3本植え込み、霜の当たらない場所で管理します。



成長を考慮した植栽で、バランスよい配置に

ヒヤシンスの植えつけ

水は球根のそこにわずかにつく程度に



根が伸びてきたら暖かい場所に移動させましょう

ヒヤシンスなどの春咲き球根は、水栽培で花を楽しむこともできます。水栽培は、養分を与えず、水だけで生育させるため、球根は傷や腐っている部分のない、大きいものを選びましょう。直径5~6cm程のものが目安です。

まずは、日のあたらない涼しい暗室で管理し、根がのびて底に達したら、明るい場所に移動させましょう。あたたかい場所での生育は、花が咲かない場合があります。

腐葉土と堆肥づくり

落ち葉を集めて、腐葉土を作りましょう。落ち葉集めは雨のあとが最適。積み込みしやすく、発酵もしやすくなります。ただし、イチョウのようにベタつくものや、樹脂が多くて腐りにくい針葉樹は排除しましょう。落ち葉がたまったら、ポリバケツなどに 米ぬかなどを混ぜて腐葉土を作ります。また、雑草や枯草には、野菜くずなどを混ぜて、堆肥づくりをしましょう。乾いた土を野菜くずの間にはさむことで、悪臭を抑えることができます。

